

## ワークショップのまとめ

どのグループでも、歴史の深さ、市堀川・紀ノ川といった水辺の存在、駅周辺の公共施設の多さが資源として挙げられた一方で、まち自体のにぎわいのなさや、施設の老朽化、案内の不足などにより、それらを十分に活かすことができていないという意見も多くありました。上に述べたような既にあるこのまちならではの資源を有効活用するとともに、都市としての機能や利便性、快適性を改善していくことが求められます。

### まちの課題

市駅はまちの中心であるのに、周辺に施設が少なくまちなみも老朽化し、賑わいがありません。駅前には鳥害やベンチが不足しているという問題を抱え、また子供の遊ぶ場所が少ないなど、住民や利用者の目線で整備されていないことが挙げられました。

### まちの資源

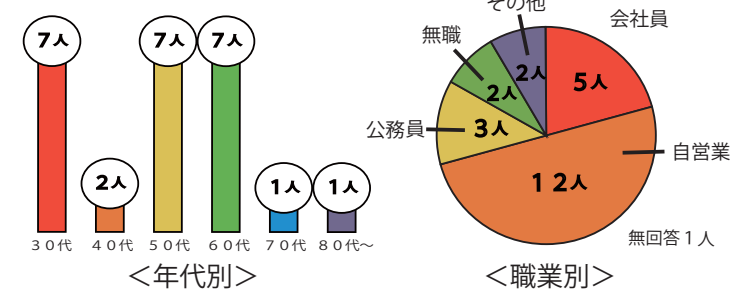
南方熊楠や雑賀孫市など、このまちにゆかりの人物や、城下町に由来する市堀川といった歴史的資源が挙げられました。また駅から徒歩圏内に公共施設や医療機関が集まっていることや、空きテナントをもっと市民生活に生かせるのでは、という意見がありました。



## 参加者の構成

ワークショップの参加者は46人（大学関係者12人含む）でした。終了後、そのうち25人の方々にアンケートに答えていただくことができました。

※アンケート回答者のみ



回答者の内訳は、男性16人、女性5人（無回答4人）、年代別では、30代7人、40代2人、50代7人、60代7人、70代以上2人で、幅広い世代の方々にお集まりいただきました。職業別では、自営業のほか、会社員や公務員の方々にもご参加いただきました。

今後は、10代・20代といったより若い方や、さまざまな立場の方々にもご参加いただき、まちに対する異なった視点を交えながら、具体的なアイデアを共有していきたいと思えます。

## 参加者の声

今回のワークショップに対するコメントの一部をご紹介します。まちへの理解が深められたという声や、若い世代の参加を望む声、次の開催を望む声もありました！

「楽しくみなさんとお話しでき、違った視点も気づくことができてよかった！」  
(60代女性)

「まちづくりは、行政・市民・企業がいかに協働できるかが実現のキーになると思います。」  
(30代女性)

「和歌山駅を意識したら、皆でかつての栄えたまちを取り戻そうと思った。」  
(50代)

「私の住むまちをもっとよくしていきたいという、思いが強くなりました。また参加したいです」  
(30代女性)

「市所有のボランティアサロンの活用策を考えてほしい」  
(40代男性)

「今回のような会をもっと広めて清掃活動や緑地管理などすぐ行動できることから始められればと思った。」  
(男性)

「たくさんの資源があるのがわかった、うまく利用できれば人が集うと思います。」  
(男性)

「住民組織をどのようにつくっていったらよいか、そのために今回のような取り組みがとても大事。」  
(60代女性)

「真剣に地元を見つめ直す機会を与えていただきありがとうございました」  
(30代女性)

「いろいろな情報を共有できたらと思っています。よろしく願います。」  
(40代男性)

「30代前後の若い方々ばかりの集会機会もまた是非作ってください。」  
(50代)

「このような集まりは良いことだと思います。また参加したいです」  
(50代男性)

「市駅周辺に関心のある人たちがこのように集まって意見を交換することはとても素晴らしい」  
(60代女性)

「まちづくりはまちを知ることから。まちを知るために、もっとまちに出ましょう」  
(50代男性)

「市駅周辺に関心のある人たちがこのように集まって意見を交換することはとても素晴らしい」  
(60代女性)

**次回予告**  
日時 2015年1月30日(金)  
19:00~20:30  
(18:30開場)  
場所 城北連絡所2階会議室

今回は、テーマ別にまちづくりのアイデアや方向性について議論します。

**編集後記**  
このたび無事にまちづくり通信・創刊号を発行することができました。まずは関係者の皆さまにお礼申し上げます。この通信が、市駅とまちの未来予想図を描く上で、少しでもお役に立てれば嬉しく思います。  
永瀬ゼミ3回生 鈴木 ささら

# 市駅まちづくり通信 01

## 第1回まちづくりワークショップ開催！

創刊号 2014.12.22

発行：市駅まちづくり実行会議

編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室

市駅周辺のまちをより良いものにするため、「市駅まちづくり実行会議」が結成され、11月28日に城北連絡所にて「第1回市駅まちづくりワークショップ」が開催されました。この通信では、ワークショップの経過報告を中心に、市駅まちづくりの取り組みについて、地域の皆さまに情報発信していきます。

## 今、まちづくりを考える理由

和歌山の由緒ある玄関口を、次世代に受け継ぐために。

1903年3月に和歌山市駅が開業して以来、市駅周辺地区は和歌山市の玄関口として発展してきました。しかし近年は、車社会の進展による鉄道利用者の減少、商店街の空洞化に加え、今年8月には高島屋が撤退するなど、極めて厳しい状況にあります。一方で、市駅は今も和歌山市の中心ターミナルであり、周辺には市民会館などの公共施設、紀ノ川や市堀川などの水辺空間があり、和歌山城にも近接するなどの利点も備えています。

市駅周辺の現状と可能性を見つめ直し、地域で話し合いながら、まちの未来を描くことが、切に求められています。次世代のためにも、実現に向けた行動を起こすことで、魅力的で誇れるまちを再構築すべき時にあります。



## 市駅まちづくり実行会議とは

市駅を中心としたまちづくりを考え、実行するため、市民が主体となった組織を立ち上げました。

市駅まちづくり実行会議は、市駅地区商店街連盟（中央商工会、東商店街組合）、城北地区自治会（19区、20区、22区、23区、24区、36区）、和歌山大学観光学部・永瀬ゼミ（都市・地域デザイン）が中心となって、2014年10月に結成されました。市駅周辺には、まだまだ磨けば光る個性的な資源があります。私たちは、このまちの個性を活かした豊かなまちづくりを、住民の皆さまとともに考え、市民のため、まちのため、そして未来のためのアクションを実践していきます。

市駅地区商店街連盟会長  
森下 幸生

市駅は、高島屋の撤退以降もうアカンと思っている方も多いかも。8月末に7日間だけ売店横で市駅系市域を営業した体験から、まだまだ市駅は手遅れでないように思う。街の中心部近くにあるターミナルという立地を活かさない手はない。

11/28に市駅前と和歌山大学観光学部のコラボでまちづくり会議がはじまりました。市駅前と和歌山のコラボは、実に13年ぶりである。学生さんの案をたたき台に住んでいる人営業している人が参加して地元の案を作ろうというもの。まだ参加していない方は一度お越し下さい。1回目参加の方は2回目も是非お越しください。魅力ある新しい市駅を育てていこうではありませんか。



城北地区自治会 20区会長  
木村 一夫

第1回市駅まちづくりワークショップに参加して、和歌山市駅周辺の歴史や将来プランを聞きました。市駅周辺には、雑賀衆ゆかりの鷲ノ森別院や、南方熊楠の生誕地、勝海舟の寓居地などの史跡があり、和歌山城へも近く、観光を生かした「まちづくり」ができると思います。

市駅前の景観も将来に向かって変えてゆく事を考え、市民、和歌山大学、そして行政にも力を入れていただいて、みんなが一体となって和歌山市の西の玄関口「和歌山市駅前」を大きく発展させていく事を、この機会を「今」ととらえて大きく推進していく事が大切だと、強く思います。



和歌山大学観光学部 講師  
永瀬 節治

「まちづくり」の基本は、地域で暮らす人々が主体となって、身近なまちの将来像を共有し、より良いまちに変えていくためのアクションを起こす、市民の運動です。人口減少により衰退気運が蔓延する今、まちと主体的に関わることで、まちへの愛着と誇りを育てることが決定的に重要です。

学生と調査をして分かったことは、市駅周辺には都市の記憶を伝える多くの資源があり、魅力的な立地条件を備えていること。そして市駅は、今も老若男女、生活者と来訪者が行き交う、和歌山市の玄関口であるということです。このワークショップを機に、地域の皆さまとともに、まちを磨き上げるお手伝いをさせていただければと思います。

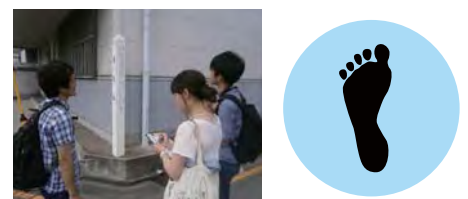


# 市駅とまちの可能性を探る 和歌山大学永瀬ゼミ (都市・地域デザイン) の取り組み

和歌山大学観光学部・永瀬ゼミ (都市・地域デザイン) では、市駅周辺の地域を対象とした調査・研究活動を行うとともに、市民の方々にまちの歴史や現状・資源を知ってもらうための展示会を実施してきました。

## 市駅周辺地区のフィールドワーク・歴史調査 2013年秋～

都市計画・まちづくりを専門とする永瀬ゼミでは、これからの市駅周辺地区のまちづくりのあり方を考えるため、フィールド調査や資料調査を進めています。これまでに空き店舗や駐車場、建物の用途・階数、街並み、樹木・緑や水辺などの景観、歴史的資源などの把握を行ってきました。



## 市駅開業 111 周年展示会 「市駅の鼓動・都市の記憶」 2014年3月20～23日

和歌山市駅が開業 111 周年を迎えることを記念した展示会を開催しました。市駅改札前を会場とし、市駅とまちの歴史を振り返る年表や歴史パネル、学生が行った調査の成果パネル、さらに市民の方から伺ったまちの思い出を流すスライドショーなどを展示しました。



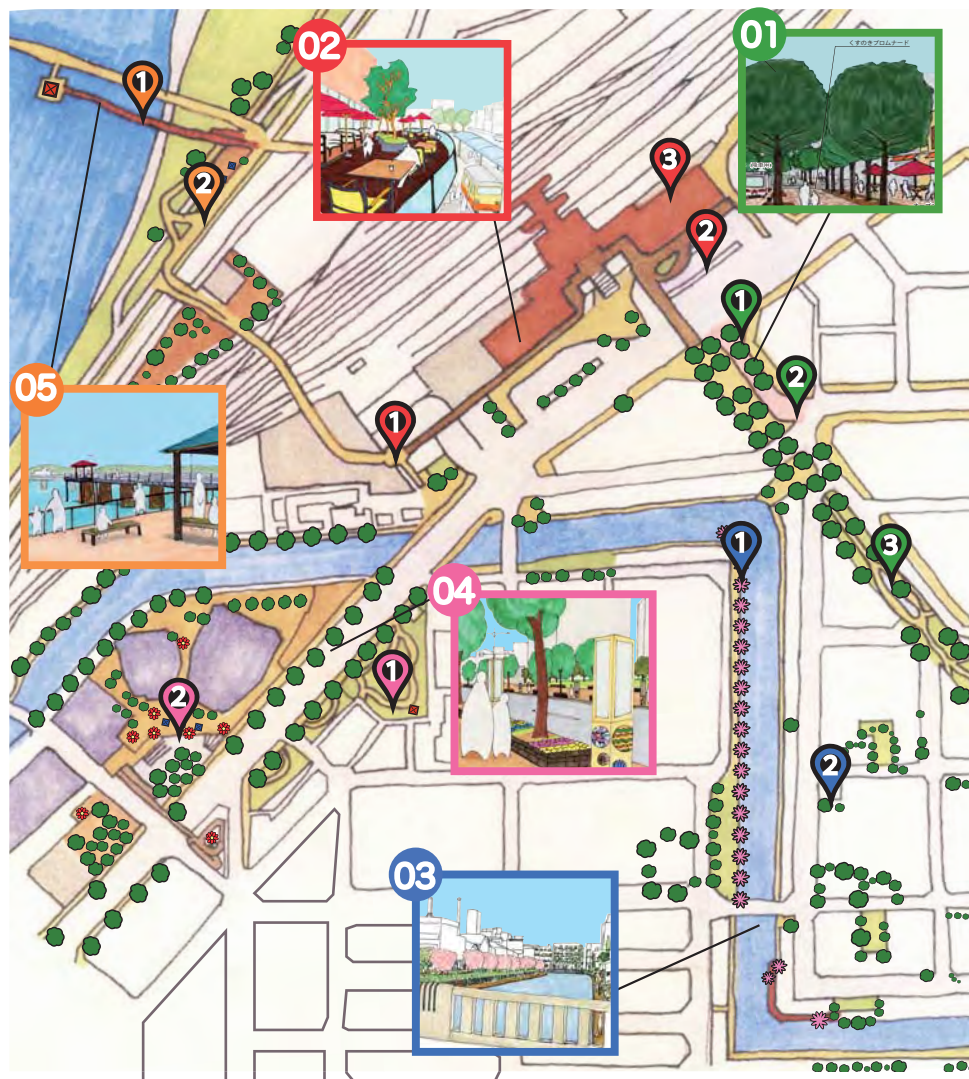
## 和歌山高島屋の歴史パネル展・共催 「まちらぼ - 未来を想像し、創造する -」 2014年8月1日～12日

和歌山高島屋の歴史パネル展と合同で、高島屋 1 階特設会場にて、未来のまちづくりを考える展示会「まちらぼ」を開催しました。市駅周辺地区を 1/500 スケールで再現した模型と、学生が考えた提案パネルの展示に加え、今後のまちづくりに対する来場者のご意見も伺いました。



## まちづくりの5つの提案

8月の展示会「まちらぼ」では、市駅周辺の公共空間を対象とした、学生による5つの提案を展示しました。



### 01 市駅前アーバンオアシス

—にぎわいと緑あふれる歩行者空間—

- 1 駅前通り北側の約 50m をトランジットモール化 (公共交通・関係車両のみ通行可の歩行者中心の街路)
- 2 オープンカフェ設置でにぎわい創出
- 3 南側約 90m は車道 1 車線を残し、緑地を中心とした憩いの空間にする → ビオトープ設置で憩いと学びの場

### 02 駅前空間リノベーション戦略

—歩行者の視点から見た魅力ある交通結節点—

- 1 紀ノ川側への南北自由通路の設置 → 駅ビル 2 階からは駅前通りへ 西側からは紀ノ川、市民会館方面へ
- 2 バスプールを駅東側へ移設 → 乗降空間一体化、改札へ近づける
- 3 駅ビルにオープンテラス設置 → 公共空間を居心地の良い空間に

### 03 市堀川ウォーターアベニュー

—遠回りしたくなるまちなかのうらおい空間—

- 1 遊歩道にウッドデッキを整備し、市堀川周辺に回遊空間を創りだす → 駐車場や空き地は公園・緑地化 駅前通りからの入口を設け誘導
- 2 歴史資源を活かした界隈づくり → 藩校跡や世界一統、南方熊楠など、まちの歴史を伝えるギャラリー設置

### 05 河西橋メモリアルプレイス

—都市と共に歩んできたシンボルの記憶の場—

- 1 河西橋橋梁 (旧加太線橋梁) を部分保存し、水上テラス・眺望デッキに → 水辺に憩いの場を創出
- 2 河川敷サイクリングルート → 市駅周辺の新たな見どころ

### 04 市民会館コミュニティガーデン

—豊かな緑と市民コミュニティを育む場—

- 1 街路樹、公園、緑地の整備 → 緑のうらおい空間を作る
- 2 市民会館 2・3 階部分の屋上庭園をオープンテラス化 → 歩道橋に接続

# 第1回 市駅まちづくりワークショップ

2014年11月28日の19時より、城北連絡所の2階会議室にて、第1回市駅まちづくりワークショップを開催しました。34名の方にご参加いただき、学生のプレゼン時間を含めたおよそ2時間、まちづくりについて熱い議論を交わしました。

## ワークショップとは？

「ワークショップ」とは、地域にかかわる様々な立場の人が参加して、自分たちの暮らすまちの課題や、その解決方法を話し合う・アイデアを出し合う場のことです。今後も複数回実施し、市駅地区におけるまちづくりの住民案を作り上げる予定です。



## 当日のプログラム

第1部では、今回のワークショップの趣旨説明と、永瀬ゼミによる市駅まちづくりに向けた活動の説明、学生のまちづくりに関するプレゼンテーションを行いました。第2部のワークショップでは、まちの課題と資源についてのグループワークを行いました。最後に各グループで出た意見を発表してもらい、会場全体で共有しました。

- ◎第1部 趣旨説明とプレゼンテーション
  - 19:00～ 開会のあいさつ (市駅地区商店街連盟・森下)
  - 19:05～ 今回の趣旨と研究室の活動について (和歌山大学講師・永瀬)
  - 19:15～ 学生によるまちづくりの5つの提案 (永瀬ゼミ3年生)
  - 19:35～ 提案に関する質疑応答
- ◎第2部 ワークショップ (19:45～20:30)
  - 19:45～ グループワーク①: まちの課題について
  - 20:00～ グループワーク②: まちの資源について
  - 20:10～ 発表内容まとめ (各グループ)
  - 20:15～ 全体発表
  - 20:25～ 総括・次回について

## ワークショップの意見

ワークショップの際に各グループで出た主な意見を抜粋して紹介します。

### A グループ

**課題**

- ▶ 利用者の減少により、電車の数が減っている
- ▶ バス乗り場が遠いなどターミナルとして利用しづらい
- ▶ 駅前広場や周辺道路の花壇・枯れ木の管理・手入れ不足
- ▶ 公園や休める広場が少なく、子供の遊ぶ環境が少ない
- ▶ 集客力のある目立つ施設 (映画館・スポーツ施設) が欲しい
- ▶ 市駅の裏側 (紀ノ川方面・北側) が発展しない
- ▶ 駅前のアーケードが壊れてしまいそう

### 資源

- ▷ 駅舎や駅前広場といった既存のストック
- ▷ 寄合町ボランティアサロン
- ▷ 空襲以前の名跡や家老屋敷跡
- ▷ 北大通りの街路樹
- ▷ 水天宮をはじめとする市堀川周辺の歴史ある建造物
- ▷ 和大生という人の資源

### B グループ

**課題**

- ▶ 地域性があり、気軽に立ち寄れる飲食店が少ない
- ▶ 店舗の後継者問題・土地税の高さ
- ▶ 会社帰り、特に 20 時以降に利用できるスーパーがない
- ▶ 駅前商店街としての機能・役割が活かされていない
- ▶ 空き店舗が多い上に街灯がなく、夜暗い
- ▶ お城から市駅に向かう観光客の流れがない
- ▶ 歩行者導線がない

### 資源

- ▷ 南方熊楠、雑賀孫市など歴史上ゆかりのある人物
- ▷ 市堀川・紀ノ川といった水資源
- ▷ 鷲ノ森別院
- ▷ かつて存在していた路面電車
- ▷ 駅前大通りの活用
- ▷ ビルの屋上を展望台に
- ▷ ラーメンバスの復活

### C グループ

**課題**

- ▶ 駅から正面のアーケードが老朽化しており景観が悪い
- ▶ 駅前の鳥害 (ムクドリ)
- ▶ 規模の小さい青空駐車場が多く、土地の無駄遣い
- ▶ 借地が多く、保守的で新しい店を開きにくい
- ▶ お年寄りが休めるようなベンチが少ない
- ▶ 県外から訪れる人への観光情報の提供量が乏しい
- ▶ 水辺 (市堀川・紀の川) を上手に活用できていない

### 資源

- ▷ まちの顔にもなる駅前広場の存在
- ▷ ビルの空き室や空きテナントを活用
- ▷ 各種医療機関の多さ
- ▷ イオン、友ヶ島など周辺地域の集客力を利用
- ▷ 戦災傷の残る二宮金次郎像
- ▷ まちの歴史の生き証人であるお年寄り

### D グループ

**課題**

- ▶ 街並みが古く貧相で統一感・清潔感がない
- ▶ 書店・飲食店など施設が少なく駅へ行く目的がない
- ▶ ファーストビルがさみしい
- ▶ 案内が不十分で、特に観光客や出張の人たちに不親切
- ▶ 駅にトイレが少なく不便
- ▶ 市の中心部だと訪れる人に思われていない
- ▶ 歩いていても楽しくない

### 資源

- ▷ 公共施設が駅から徒歩圏内に密集し、並んでいて便利
- ▷ 関空・大阪へのアクセスの良さ
- ▷ 観光名所の和歌山城まで近く、徒歩 10 分ほどで行ける
- ▷ 市堀川と川沿いの世界一統
- ▷ 地元企業とのコラボ
- ▷ 小中一貫校の誕生
- ▷ レンタルサイクルの設置